

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

1月の金融・マーケット動向

「金」上昇

金の強い上昇が続いている。先ず、その価格推移を表にしてみる。

| | NY金 | 上昇率 | ドル-円 | 上昇率 |
|--------|-------|------|--------|------|
| 01/3 末 | 259.2 | 100% | 0.8806 | 100% |
| 01/9 末 | 294.0 | 113% | 0.9145 | 103% |
| 02/3 末 | 303.7 | 117% | 0.8720 | 99% |
| 02/9 末 | 325.2 | 125% | 0.9829 | 111% |
| 今週 28 | 370.6 | 142% | 1.0873 | 123% |

(NY金は1オンス当の先物価格、上昇率は01年3月末を基準にして算出)

この2年間の、特にこの1年の金価格上昇の勢いは目を見張るものがある。20年という長期間だからだと下げ続けた時代が嘘のようだ。金は何故上昇しているのだろうか。

極く自然な答えは「有事の金買い」だろう。一昨年の9・11テロ以降、世界秩序に異変を感じ取った投資資金が金に向かっているという説明だ。確かにその通りかもしれない。それは世界の機軸通貨であるドル変動にも現れている。

対円ではよく分からないが、対ユーロで見るとドルの低落は明白だ。ドルベースでの金価格上昇は、ドル低落の裏返しでもある。投資資金の金への流入は、「信用の危機」(印字されたもの(紙幣や債券)から実物への移動)を語っているのかもしれない。

メガバンクの増資

大手銀行が一斉に資本増強に走っている。その中でみずほ銀行の1兆円増資は強烈だ。親密企業・大企業だけでは足りず中小企業にも出資要請に動いているようだ。頭取は「取引先の強い期待を感じている」等と戯けた事を云っているが、私には「血迷っている」としか思えない。それもこれも生き延びるためなのか。

- ・ジャパンネット銀行 200億円
- ・ソニー銀行 375億円
- ・IYバンク銀行 610億円

上記は近年設立された銀行の資本金である。1兆円は、500億円規模の銀行が20行できる位大きな金額である。古い意識に占拠された場所に1兆円も投じるくらいなら、従来の金融慣行、金融秩序にこだわらない、全く新しい考え新しい理念を持った銀行を20行作った方が余程金融改

革に役立つと思うが、どうだろうか。

マル保、借換制度

広島県信用保証協会が、中小企業の資金繰りを支援するため借換制度を新設した。これは、複数契約を一本化する、最大融資期間を10年に延長する、ことにより毎月の返済額を軽減することを目的としている。言わば「保証協会サイドからのリスク」ともいえる制度である。

今、中小企業庁は同様の制度を全国に広めることを検討中と伝えられているが、どうせやるなら素早くやって欲しいものだ。新たな制度融資を作るより必要な制度である筈だ。

債務償還年数、29年

財務省の法人企業統計(2002/7~9)に基づいて計算すると、中小企業の債務償還年数は29年となるようだ。借入約定返済期間との乖離は依然として縮まらず、資金繰り悪化の最も大きな原因となっている。

債務償還年数を小さくするには、分母(利益)を増やすか分子(債務)を減らすしか方法はない。中小企業にマジックなどない。

地方版「再生機構」

関東甲信越1都10県に「中小企業再生協議会」なるものの設置が検討されている。経営不振に陥っている中小企業の再建を支援するための組織で、論議を呼んだ「産業再生機構」の中小企業版という。元来、こうした組織はあまり期待できないのが通り相場だが、不振企業にとって一縷の望みとなるだろうか。

銀行融資残高推移

銀行は昨年も貸出金を減らした。その是非は兎も角として、銀行が、顧客数減少、顧客支持低落、信用力低下、に見舞われていることは確かなことと思われる。ここ数年の年末月平残の動きを表にしてみた。

| | 都銀等 | 地銀 | 地銀 | 合計 |
|-------|------|------|------|------|
| 93/12 | 346 | 126 | 50 | 525 |
| 96/12 | 344 | 135 | 52 | 533 |
| 99/12 | 292 | 133 | 50 | 478 |
| 02/12 | 244 | 131 | 43 | 420 |
| 昨年伸率 | 7.2% | 0.4% | 1.9% | 4.6% |

(金額単位：兆円)

大手銀行の落込みは際立っている。この流れが地域銀行に及ぶとすれば一寸恐ろしい。